

旧ユーゴに支援を

AMDAの本部を訪ね訴え

岡山

この日、一行は岡山市役所や県職員労働組合、岡山ライオンズクラブへも状況を説明し、協力を呼び掛けた。

内戦が終結した旧ユーゴスラビア・ヘルツェゴビナで、救済活動を続けているアジア医師連絡協議会（AMDA）の現地スタッフが十三日、岡山市檜津のAMDA本部を訪れ、活動状況などを報告し、支援を呼び掛けた。

訪れたのは、AMDAポ

スニア・ヘルツェゴビナサラエボ事務所のミレンコ・プレシッチ調整員、新ユーゴスラビアベオグラード事務所のミラン・バストヴァノビッチ調整員ら旧ユーゴスラビアで内戦後の救済活動を行っている六人。

プレシッチさんらは「内

戦で社会基盤をすべて失ってしまい、食糧も十分ではない。技術訓練など一刻も早く自立した生活ができるような援助が必要なのに、遅々として進んでいないのが現状」と報告。継続した食糧や技術支援などを訴え開いている。

AMDAは、平成六年一

月から、国内三NGOで組織した日本緊急救援NGOグループ・JENの一員として旧ユーゴスラビアで医療、教育、生活改善、職業訓練など約四十の難民、被災者救援プロジェクトを展開している。